

### 編輯室の内外

「形質は草露の如く、運命は電光に似たり、倏忽として便ち空じ、須臾に即ち失す」とは禪林の名句、昭和十三年もいつしか暮れた、編輯室内原稿堆き卓上をながめ、轉じ歲月の流の速かなるを嘆じつゝ歳末號を編し終つた、回顧して微力各位の御支援に背きたることの少なからざるを思ひ深く御わびをする、來年は一段の御支援を賜はりて國勢の進展に貢献せんことを祈る次第である。

長期建設の國策に順應すべく交通事業として超高速自動車道路が計畫され二階式の高速自動車道路の造築が案出さる、中々の苦心と資源とを要する次第で其の實行は容易な業ではあるまい、だが如斯大計畫も必要であらうが現在道路の舗装は一日も之を忽踏に付してはならぬ焦眉の急務である前號掲載の「道路舗装の効果」と題する安藤土木局長の所論は苟くも地方道路行政に従ふもの、讀み残してはならない文獻である。

支那に於ての戦果は忠勇なる將兵に依つて着々擴大確保せられたが國際關係はいよいよ面倒となつた、米國との外交文書戦は如何に終結するか、駐支英大使カー氏の蔭政權掩護の策成功するや否、折しも重要訓

令を携行し新駐伊大使白鳥敏夫氏は赴任した明春開催さるゝ在歐大公使會議に期待する所大ならざるを得ない。

日獨文化協定は學術、美術、音樂、文學、映畫、無線放送青少年運動、競技等に於て組織的に文化關係を増進することとなつたが、獨逸伊太利の文化協定も兩國代表者によって調印された、だが此の本文化協定の成立は獨伊樞軸の強靱性を更に明かにしたものでこの協力は單に利害の聯繫に止まらず精神的にも堅く結ばれてゐる證左であるとの印象を與へた譯である。

漁村を國際港に飛躍せしめたのは福岡縣企救部長津田維寧翁で翁は五十年前一漁村文字ヶ關に着眼し同志數名と共に幾多の辛苦を重ね遂に其の志を遂げたのである、今次其功績を偲ぶの企が起された、ゆかしき限である。

佐賀縣で昨十二年末現在人口を調査したる處人口は男三十三萬三千九百三十五人、女三十五萬三千一百一人、計六十八萬七千三十六人、戸數十二萬五千一戸で、これを前年末に比すると人口は男二千九百八人を減じてゐるも女は反對に千八百六十四人を増し結局總數において千四百十四人を減じてゐる、要するに佐賀縣は女の方が約二萬人ばかり多くいはゆる「女天下」の國である。内務省土木試験所長藤井眞透博士は滿洲を視察し歸來大陸交通に關し研究せられつ

あるが開發は先づ道路からと次の如く話された「世界最大の陸地を有する支那には一體どの位の道路があるか、内務省土木局の調査によると三百萬キロ、このうち國道は凡そ五十萬キロとなつてゐるが、支那の道路はその大部分が荷馬車の通行を標準としてゐるため、時速四、五十哩の自動車が通り得る程度の道路は僅かに延長五千キロに過ぎない、速度六十哩を標準とする國道四百八十萬キロを有する北米合衆國あたりに比較すれば、支那文化がいかに荷馬車文明の埒を出でないか、一目瞭然に過ぎる、しかもこの「五十キロ道路」も支那軍の破壊戦術からその大半を失つてしまつた、經濟開發、文化建設に先行すべき大陸の長期建設はどうあるべきか」と(洸)

定價一部 五十錢  
一ヶ年分 金六圓

發行所 東京市麹町區霞關一丁目内務省内  
社団法人 道路改良會  
電話銀座(四)四二七

發行所 東京市世田ヶ谷區代田一丁目七八〇番  
編輯者 小島 效

印刷所 東京市小石川區歌訪町五六  
印刷者 常磐印刷所  
奈良直一